



TITLE:

データベースSAIGAIの改革 --防災  
研の災害資料を有効に使ってもら  
うために--

AUTHOR(S):

大西, 正光

---

CITATION:

大西, 正光. データベースSAIGAIの改革 --防災研の災害資料を有効に使  
ってもらうために--. 自然災害科学総合シンポジウム講演論文集 2018,  
55: 77-82

ISSUE DATE:

2018-09-18

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/240605>

RIGHT:

# データベースSAIGAI の改革

ー防災研の災害資料を有効に使ってもらうためにー

大西 正光  
巨大災害研究センター

## トピック

---

- ・ 防災研究所が管理・運営しているDBの紹介
- ・ データベースSAIGAIの現状と改革
- ・ データベース保有に関する教訓（私見）

## 自然災害研究者人材データベース(人材DB)



京都大学防災研究所  
自然災害研究者データベース

本データベースは、自然災害科学の研究者ネットワークの運営を目的として、特に災害発生時の調査活動において迅速に連絡の取れる研究者のデータベースを構築できるようにするため、必要な情報が少ない状態で検索・閲覧できることを目的としたものである。

自然災害研究協議会  
2006.08.04  
2012.03.30

ユーザ名:   
パスワード:

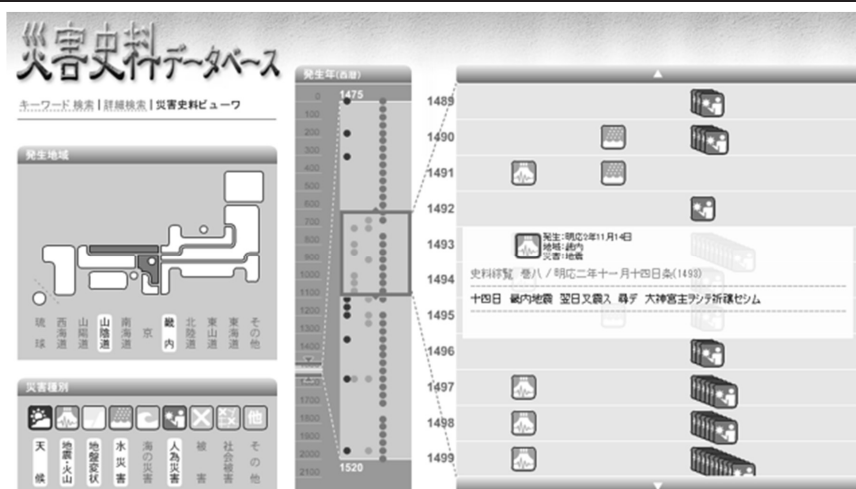
下にメールアドレスを入力して、ユーザIDとパスワードを取得してください。(データベースに登録されている方のみ)

新規登録申し込みはこちら

<http://nyorai.dpri.kyoto-u.ac.jp/win/jinzai/ndic/login.cfm>

- 自然災害研究協議会を通じて運営
- 目的
  - 地区部会の組織確立及び地域に特徴的な災害研究を推進する核の構成
  - 突発災害調査班の迅速な立ち上げ
- 現在の登録数は1037名。2006年に始まり、2011～12年に大幅な登録増。最近の登録は2013年(3件)
- 現状
  - ソフトウェアが古く、セキュリティ上の懸念から外部公開を停止中。
  - 協議会において、同DBを廃止し、MLを再構成することにより、機能を維持することとなった。

## 災害史料データベース



古文書に残る災害の歴史的記録から災害発生パターンを知る

<http://maple.dpri.kyoto-u.ac.jp/saigaishiryu/>

# 自然災害データベース「SAIGAI」

## 検索画面

### 自然災害データベース「SAIGAI」

●検索キーワードを入力してください。

検索

~「SAIGAI」とは~

~検索方法~

検索ボックスにキーワードを入力して「検索」ボタンをクリックすると、検索結果のリストが表示されます。また、スペースを挟んで複数のキーワードを指定することで“and”検索ができます。

~ダウンロード~

検索したリスト、または個別の詳細ページにて、タブ区切りのテキストファイルのダウンロードができます。  
(文字コード：UTF-8 改行コード：CRLF)

自然災害データベース「SAIGAI」は、日本学術振興会による平成7、9、10、11、12、14、16、18、19、21、23年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を受けて、作成・公開されています。

<http://maple.dpri.kyoto-u.ac.jp/saigai/>

シンプルな  
キーワード検索

## 検索結果画面

自然災害データベース「SAIGAI」

てんでんこ 検索 ダウンロード リストのみ 詳細を見る

●1件中 1 - 1件目を表示

1. 「津波てんでんこ」-その真意と問題点-

~ 山下文男 (作家・歴史地理研究会)

近刊誌「The Kindaishobo」

資料番号	20110601203
題名	日 「津波てんでんこ」-その真意と問題点-
作者・所属機関	日 山下文男 作家・歴史地理研究会
	英
掲載誌	日 近代消防
	英 The Kindaishobo
	2004年 6月 518号巻 掲載頁23~ 27
発行所	日 近代消防社
	英 Kindaishobosha
地名または地域名	日 日本
	英 Japan
概要	はじめに 言葉の意味 共倒れの悲劇 欲しい知識 「災害弱者」対策との関連 自主防災と消防団の役割 わすび
コメント	
資料の種類	学術雑誌・論文集
資料の体裁	オリジナルの資料
保管場所	九州大学
コピー	不可
キーワード	

災害関係  
資料の  
図書館

所蔵件数  
126,781件

保管場所が記されており、自然災害研究協議会事務局に問い合わせれば資料を入手できる

# データベースSAIGAIの運営体制

- 巨大災害研究センターが運営担当
  - 自然災害研究協議会事務局の河津さんが、データベースSAIGAIの目録入力、書庫整理、貸し出し対応を1人で担当
  - サーバーは、京大の情報環境機構のホスティングサービスを利用
- 自然災害研究協議会を通じた資料収集
  - 各地区支部から巨大災害研究センターに、所蔵すべきと判断された資料が送付される。

## データベース「SAIGAI」の課題

---

- プリミティブな検索技術／データベースシステム
  - ・ シンプルなキーワード検索のみで絞り込みが難しい.
  - ・ データベースSAIGAIのデータベースと書架配置データベースが未統合
- 不十分な管理体制
  - ・ 書庫管理は、専門的知識を有する相応の人数の人員が必要
- 冗長な資料
  - ・ すでに電子化されている資料、他の施設で広く入手できる資料も所属
- 少ないエクスポージャー
  - ・ わざわざ、データベースSAIGAIを訪ねないと所蔵資料がヒットしない.

## データベース「SAIGAI」の改革

---

- アウトソースできるものは外へ、できないもののみ内部で  
データベースシステムには規模の経済性が働くため、すでに大規模に進めている外部機関が提供する既存のサービスを利用する方が効率的  
→ 自然災害研究協議会で承認済み
- アウトソース先の条件
  - ・ 安定的・継続的運営が可能な組織
  - ・ 図書館司書などの専門人員を有している組織
  - ・ 所蔵資料が全国図書検索システム(※国会図書館が2020年稼働を目指すジャパンサーチ構想)に含まれる
- 防災科学技術研究所ライブラリーなどを検討中

## アウトソースに向けた課題

---

- 棚卸しの方針策定
  - 優先順位: 防災研→京都大学→他組織
  - 棚卸しの基準とプロセス
  - 作業の実施人員の確保
- 自然災害研究協議会を通じた資料収集体制の維持
  - 地区部会の資料収集体制の確認ーヒアリング, アンケート等の実施
- 防災研の貢献の記録
  - 自然災害研究協議会を通じた防災研資料室のコレクションであったことを移転先の目録に記載してもらう等

## 教訓 ※あくまでも私見です


---

### データベースを保有するとなれば…

- かなりの規模の投資(設備と有能な専門家・戦略家)が必要
- 継続的な財政的支援体制が構築できなければ, 相対的価値は一気に低下する恐れ
  - 期限付き財源は初期投資へ. 運営には経常的財源を充てるべき.
- 内部リソースだけでは価値は限定的. 連携を通じて外部リソースをどれだけ巻き込むことができるか?

## 今年度のスケジュール(案)

---

- 
- ◀ 6月 第1回WG 今後の行動方針, 手続き, スケジュールの確認
  - ◀ 8月 第2回WG 所内行動計画の内部ドラフト素案
  - ◀ 9月18日 第2回自然災害研究協議会 行動計画検討状況の報告
  - ◀ 9月末 第3回WG 所内行動計画のドラフト
  - ◀ 10月～12月 学内でのパブリックコメント受付
  - ◀ 1月～ 第4回WG 所内行動計画の確定
  - ◀ 3月 第3回自然災害研究協議会 所内行動計画の審議